

キッズストリートプログラム ~子ども参画型街づくりプログラムの提案~ ~ユニバーサルデザインを取り入れた通りの提案~

a2200711 東海林美由紀

■ 背景
会津若松市の中心に位置する大町通りは現在空洞化が深刻な問題となっている。その要因として考えられることの一つに中心市街地における若年層人口の減少がある。つまり大町通りのまちづくりに取り組んでいる人たちの年代も高い。そこで、新しいまちづくりのプログラムとして子どもたちが参画できるまちづくりの提案を行う。

そこで私が注目したのは大町通りの「道」である。大町通りは双方通行と一方通行の箇所があるがその割には1時間あたりの自動車交通量414台と多く、スピードを出しすぎている車も多い。さらに歩道が狭く一定ではない上、段差が多く危険な箇所も他所見うけられる。子ども参画型のまちづくりを提案する上で、道の安全性や快適性は必要不可欠な要素であると考え、ユニバーサルデザインを取り入れた通りの改善を提案することとした。

■ 目的
ユニバーサルデザインで誰もが使いやすく快適であることを目的としているため障害者はもちろんのこと誰もが安全・快適に利用でき、利用したくなるような通りのデザインを図面・模型にて提案する。デザインは模型にて表現する。またハード面だけではなく、ソフト面でもいくつかの提案を行っている。

- 調査
 - ・ 全国のボンエルフ道路の事例調査
 - ・ 大町通り、パセオ通りのUDチェック
 - ・ パセオ通りの調査
 - ・ 大町通りとパセオ通りの比較調査
 - ・ 道路地図からの図面の作成
 - ・ 大町通りの方たちを対象とした「道」に関するアンケート調査と分析
 - ・ 町並み調査

□ ボンエルフの調査



□ UDチェック (大町通り・パセオ通り)

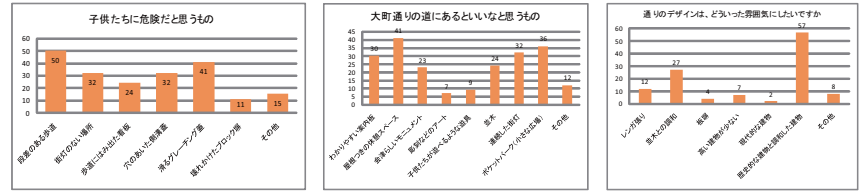
大町通り (平日の1時間あたりの交通量 自動車: 414台 歩行者: 146人)	
チェック項目	評価
歩道及び車道は、交通量及び利用状況に応じた、適正な幅員としているか?	交通量が多く十字路では、混雑する場合がある。
歩行者の靴のかかたなどが落ちないものとしているか?	側溝蓋が破損し、大きな穴になっている箇所が狭まる恐れがある。
自転車の出し入れで、通行を妨げることのない場所に設けているか?	駐輪スペースに入りきらず歩道にはみ出している。

パセオ通り (平日の1時間あたりの交通量 自動車: 124台 歩行者: 208人)	
チェック項目	評価
強い日射しを遮るよう、木陰などを設けているか?	連続した並木が木陰を作っている。
水飲み場、照明などの設置を検討しているか?	水のみ場や連続した街灯がある。
消融雪施設を設ける場合は、溶けた水の流れを考慮した排水計画としているか?	側溝がなく排水設備が甘いため大雨時は道路に水がふれる。
連続的な平坦性を確保するとともに、段差軽減のため、フラット型としているか?	側溝がなく歩道全体がフラットになっている。

□ 大町通りとパセオ通りの比較調査

項目	大町通り	パセオ通り
自動車交通量	平日: 414台 休日: 336台	平日: 124台 休日: 225台
歩行者交通量	平日: 146人 休日: 123人	平日: 208人 休日: 233人
道幅	7~8m	約13m
全長	約1km	470m

□ 大町通りの「道」に関するアンケート調査結果 (配布250通 回答119通 回答率47.6%)



大町通りの道で危ないと思うところや不便に感じていること、困っていることはありませんか。

- 1 歩道が狭い……78件 (65%)
- 2 道に凹凸がある……63件 (53%)
- 3 自転車と歩行者を分断するものがない……60件 (50%)
- 4 歩道の電柱が通行の妨げになっている……56件 (47%)
- 5 一方通行になっている部分に分かりにくい……42件 (35%)
- 6 除雪場がない……35件 (29%)

自転車で行く際は車道と歩道のどちらを歩道を利用しますか



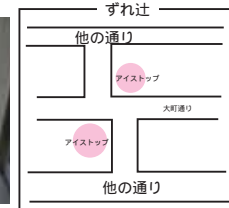
「道幅が狭い」と回答した人は全体の65%、「道に凹凸がある」と回答した人は全体の53%、また「子供たちに危険だと思うものは？」という問で1番多い回答数だった「段差のある歩道」は全体の42%で約半数と、現状と住人たちの意識には差があることがわかった。「自転車と歩行者を分断するものがない」という回答に対して「自転車で行く際は車道と歩道のどちらを走るか」という問いには「両方」42%「車道」32%「歩道」26%という結果となった。

□ 大町通り図面・町並み写真 (一部)



□ デザイン参考

イメージ参考画像 (伊勢谷)



左図のような「ずれ辻」が大町通りには複数箇所ある。またそれにより、他の通りから大町通りを見た時に見える場所をアイストップと呼ぶ。そのひとつに位置している伊勢谷さんは、会津の歴史的な建物の作りをしていて通りを利用する人の目を引く。このように会津という土地にあった建物や通りを考えていきたい。

□ デザイン提案

・デザイン

私は通りの全面一方通行化を考えていたがアンケートから全面一方通行化に反対の意見もあがっていたため、現在の一方通行部分の改善を考えることにした。デザインに関してはアンケートで多かった「歴史的な建物と調和した通り」「並木との調和」を取り入れた通りを提案したい。「野口英世青春通りのような素敵なレンガ通りになってほしい。」という意見も複数あったが「レンガ造りは壊れやすいのでやめたほうがいい」という意見があり、見た目だけでデザインを考えてはいけないと思った。また可能な限りで緩やかなボンエルフを取り入れポケットパークを有効的に活用したい。

大町通りの道の特徴としてずれ辻がある。そこで生まれるアイストップと呼ばれる場所は、大町通りでは空き店舗が多くある。この場所を歴史的な造りに変えることで他所の通りを歩く人に対してアピールできると考える。空き店舗になっているということこの場所を人が集まる、キッズサロンや子育て支援相談などのパブリックスペースに活用したいと思う。

・ソフト

現在、アネッサクラブが行っている4つのサイン (荷物をどうぞ・椅子をどうぞなど) はお客さんと店とのコミュニケーションツールとして重要な役割を果たしていると思う。しかし、実際にこのサービスを知っている人や利用している人は少ないため、このサービスを多くの人に知ってもらうためにサインを考え、さらに「道案内をどうぞ」を加えた5つのサービスを展開していきたいと考える。これにより、観光客は気軽に店の人と話ができて相談したりしながら買い物などを楽しめるようになると思う。